

第 2 回審議会における主な意見等

1. ある小学校では 3 つの中学校の通学区域が交わっており、学びのエリアとの整合性がとれていない。通学区域の設定にあたっては住所や集合住宅など様々な事情を考慮しないといけないが、小学校と中学校の通学区域は整合性をとれた方がいいと考える
2. 小規模校や大規模校におけるメリット・デメリットを十分に見極めたうえで、どのような方向性が望ましいのか、地域性があるのかなど議論をする必要がある。また、1 学級あたりの人数を議論するにあたっては、習熟度別少人数指導がほぼ全校で導入されており、教科によって通常より少ない人数で編制されているといった対応が行われていることも留意しないといけない。
3. 適正規模化の方法では、通学区域の変更が検討課題であるが、大規模集合住宅の建設に伴う児童・生徒数の増加は一時的なものであり、将来の状況を見据えて対応を検討する必要がある。大規模校に関しては、大規模のままでもどのような学校運営上の配慮が必要か、といった議論もしたい。
4. 通学区域を変更する場合には、人数が適正だからというよりも子どもの視点に立って教育上望ましいのか、ということを踏まえていく必要がある。
5. 前回答申における教育上望ましいとされる 1 学級あたりの人数は、校長という現場からの立場として希望としてそうなってほしいと感じる部分もあるが、現実的ではないというのが正直な感想である。
6. 学級定員（学級編制）が 35 人、40 人と決まっていますが、実際にはそれ以下の人数となっている学級が多くあるが、空間を設計するときには学級定員の上限人数が入る教室を考えないといけない。国の学級編成の基準が 40 人から 35 人へ変わるかどうか議論されている曖昧な時期に建てられた学校は 40 人が入る教室空間の確保に加え、35 人編制を想定した教室数の確保を踏まえ設計をしなければならず、もったいない作り方をせざるを得ない状況であった。1 学級あたりの人数を定めるのであれば教育の効果に加えて、経済的に良い設定を考えるべきである。
7. 子育てをする中で、板橋区に限って言えば少子化を感じることはない。
8. 4 年先の推計では全体的に右肩上がりだが、少なくとも 10 年先の推計を見たときにどうなっているのか知りたい。

9. 学校の機能は教育だけではなく、地域の防災面でも大きな役割を果たしている。3年前の台風の際、近所の小学校では50人ほどの一時避難者がいた。
10. 学校の規模の問題はあるが、子どもが学校を楽しんでいることが一番である。
11. 適正規模の問題を考えるにあたり、住宅政策と人口政策を教育政策に結びつけないといけない。板橋区内で人口が急速に増えるエリアは大山、板橋駅周辺、上板橋駅前などに加えて、志村地区には民間の土地で大規模な空き地がある。このあたりを資料として出してもらえれば議論のベースとなる。
12. 板橋区では小規模化と大規模化の偏在がエリアによって異なっているため、具体的な数字を区全体で出すのではなく、地域ごとに検討する方が適正な規模がわかるのではないか。また、板橋地区の大規模校である金沢小については1校で問題を解決すべきであるが、赤塚地区に関しては地区全体で児童・生徒が増加しており、面的に解決する必要があると考える。
13. 可動式の間仕切り（パーテンション）を利用し、大きな空間に複数の教室を作る学校もかつて造られたが、遮音性の問題を解消するためにスペックの高い仕切りを使用しなければならず、通常より予算がかかる。
14. 子どもが増えていくのかどうか見えない中では、都立高校でもあったように将来的にはほかに転用するような形で学校を検討した方がいい。
15. 学級数や児童・生徒数の一覧に総教職員数を加えると議論の視点が出てくるのではないか。学級数と規模で教育環境を設定しているが、1人の子どもに対して先生がどうかかわるかということも大切なデータになる。
16. 先生だけではなく、地域など様々な方との協力や繋がり、支えなくして教室の環境は維持しきれないため、そのネットワークをどう考えていけばいいのかを考えていかないといけない。この種の視点は諮問にはなかったが、一つの時代が求める視点だと考える。
17. 規模に関しては現場の先生たちでなければわからない。審議期間の中で、先生たちにアンケートを行い、その意見を一番に取り入れた方が適正な人数が出てくるのではないか。また、アンケートの実施にあたっては2校以上を経験している先生を対象とするなど、偏りが出ない方法を検討すべきである。
18. 現場では1学級あたりの子どもが少なすぎるとやりづらさを感じると思うが、小委員会報告でもあったとおり、国や都の基準を超えた場合に区として教員を用意できるのかを

考えると現実とかけ離れていると考える。35人学級編制となり、教員が理想とする1学級あたりの人数に近づきつつあるのではないか。

19. 経験則だが、子どもが多いとトラブルが絶えず少ない人数かいいと感じたこともあったが、少なければいいかというと教員と子どもが対一で対応することになり子どもが育たない部分もある。
20. 審議会として板橋区の教育の理想を掲げるのか、理想を掲げながらも限られた財源や教員数といった様々な条件の中で解決策を見つけていくのかによっても議論の進め方が異なる。板橋区にとって良い、ベターな状態を議論するため、そういった条件を出してもらった方がいいのではないか。